

ユビキタス建築都市特別研究委員会 業務系施設小委員会 第1回議事録 案

開催日時： 2006年7月18日(火) 10:00-12:00

開催場所： 建築会館会議室

出席者： (敬称略)

宇治川(主査)、渋谷、仲、坂東、初山、似内、横山、長舟、田丸(書記)

議題：

議題1： 自己紹介

議題2： 小委員会のミッション説明

議題3： 事例紹介

3-1: 将来オフィス事例

3-2: 情報拠点施設事例

議題4： その他

検討内容：

【議題1】自己紹介

省略

【議題2】小委員会のミッション説明

- 宇治川主査より、小委員会の設立目的やミッション、委員会構成などに関する説明が行われた(→資料1)。
- 委員名簿(案)→「大林組 長舟利雄」委員が参加。(本日出席)
- 委員名簿はまだ確定ではない。15名分の枠があるので、適宜、適切なメンバーに参加してもらおう。
- オフィス未来像に関しては、提案よりも、現状や提案を整理するための調査活動を中心に行う。そこから、建築に関わる技術のマップや具体的な行動シーンを描いた上での、オフィスで利用できるコミュニケーション技術などのマップを描いてゆく。
- 情報拠点施設に関しては、ユビキタス社会を考えたとき、電気や水道のように、情報がインフラとして流れてゆくという社会の中で、「情報拠点施設」というものが、なんらか重要な役割を持つのではないかという仮定で、どのようなものが必要となってゆくのかを検討したい。
- 収集した資料の整理や、マップ化作業の過程で、テキストマイニング技法(ツール)などを活用するような試みもしてゆきたい。(アイデア段階)

【議題3】事例紹介

業務系施設の検討を開始するにあたり、議論のたたき台として、各委員から、事例紹介が行われた。

3-1: 将来オフィス事例

- 富士ゼロックスのオフィス構築事例から、役員会議室を中心としたユビキタスオフィス環境(EOO: Executive Open Office)の紹介があった。(→資料2.1)

- 役員の生産性向上を目指し、「意思決定型ワークプレイス」「企画・検討型ワークプレイス」「相互触発型ワークプレイス」などを構築し、実運用中(→この分類が汎用的かの議論も必要)。
- ファシリティデザインと、ユビキタス IT 技術(遠隔機能付き電子ホワイトボード、電子パッド、電子ポスターなど)を融合したワークプレイスデザイン。

3-2: 情報拠点施設事例

- 宇治川主査、坂東委員、初山委員、長舟委員から、事例紹介が行われた。(→資料3)
- “情報拠点施設”という概念自体が、まだ定まっておらず、各々の視点からの紹介がなされた。例えば、「情報を作る・変換する・発信する」という視点など。
- 現在では、情報に関わらない施設はない。「情報を利用する」ことまで含めると「住宅」も含んでしまう。どの範囲までを情報拠点と捕えるのかなどの議論が必要。
- 教育や博物館などのアナログなコンテンツを扱っているところも含めるのか。最近では、図書館なども、情報メディアセンターという形で様相を変化させてきている。
- NTT の基地局、電柱、衛星など、地図に載っていないような情報拠点はどうなるのか。一方、クリエイションに関わる場所は、人間が絡むので、ある一定のスペースを持つであろう。
- 最初に「建築ありき」ではないアプローチも検討するべきではないか。論理的な意味でのインフラを考える必要がある。
- 以上のように、いろいろな議論が行われたが、今回提示されたデータは、議論を始めるためのきっかけであり、「情報拠点とは何か」も含めて、今後検討を行ってゆく。

【議題4】その他

- 委員会の中でも、新しいオフィス環境やテクノロジーを体験しながら検討してゆく。例えば、今回紹介のあった、遠隔EOO環境などを利用した遠隔環境での会合もトライアルしたい(仲研究室と富士ゼロックスを接続する環境を構築予定)

配布資料：

資料1. 技術小委員会設置提案書(改)

資料2. 未来のオフィス関連資料

2.1. EOO

2.2. 竹中新社屋

2.3. 日経夕刊 2006.7.13

2.4. 課題はクリエイティブな環境づくり(環境心理 WG 北米先端施設調査)

資料3. 情報拠点施設関連資料(宇治川、坂東、初山、長舟)

次回予定：

開催日時：2006年9月28日(木)10:00-12:00

開催場所：建築会館会議室

次回までのアクション事項：

- 特になし